

今年、リテール証券が注目すること

～商品区分別(2011年:年頭時点)



株式会社資本市場研究所きずな

今年、リテール証券が注目すること＝投信

販売額を増加させるためには

但し、一人当たり投信販売額が月間1億円を超える大手証券などの販売額は、限界なのでは？

- ・引き続き、毎月分配型が主流
- ・投資対象は、ハイイールドボンド(つまり低格付け債)か新興国債券が中心
- ・株式は、アジア新興国投資
- ・販売チャネル増加の為の証券仲介業模索

投信乗換えルール監視 (SESC)

収益を増加させるためには

- ・通貨選択型が中心
- ・安定収益である信託報酬代行部分増加を見込み、残高増加が基本だが
- ・株式投資ファンドは、テーマを決めて、ルールに沿った乗換え勧誘もある
- ・投資のレバレッジが掛かった投信(デリバティブ的商品正確)の増加
- ・SMAやラップ口座販売を強化

それぞれの顧客の立場に配慮した勧誘・説明態勢になっているか
(金融庁:平成22年事務年度監督指針)

(参考)

12月新規設定の37(除くETF)のファンド中、投資対象は

- ・債券への投資(22本中)
 - －新興国債券8本
 - －ハイイールド債7本
 - －資源国債券2本
 - －劣後債1本
 - －その他4本

- ・株式への投資(13本中)
 - －アジア株6本
 - －日本株4本
 - －中国株2本
 - －新興国1本

1月は、5日までだか、

- ・ハイイールド債 5本
- ・J-REIT 4本
- ・アジア債 3本
- ・その他 6本

今年、リテール証券が注目すること＝株式

日本株見直し機運も出始めたが

取引額を増加させるためには

- ・個人向け高速化取引対応
- ・期待される信用取引改革
- ・個人向け個別株オプション取引は拡大するか

収益を増加させるためには

- ・外国株式、特にアジア株
- ・海外ETF(外国株式と同じ決済インフラ)
- ・個人レベルで、個別株と何が複合して取引可能か

重要度を増す、海外株インフラ

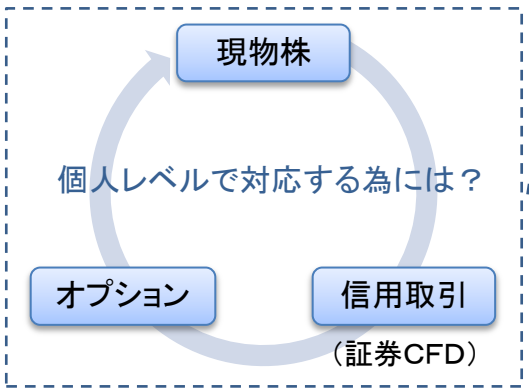
デイトレーダー達は、何処へ行くのか？

個人投資家のニーズに合う情報の提供

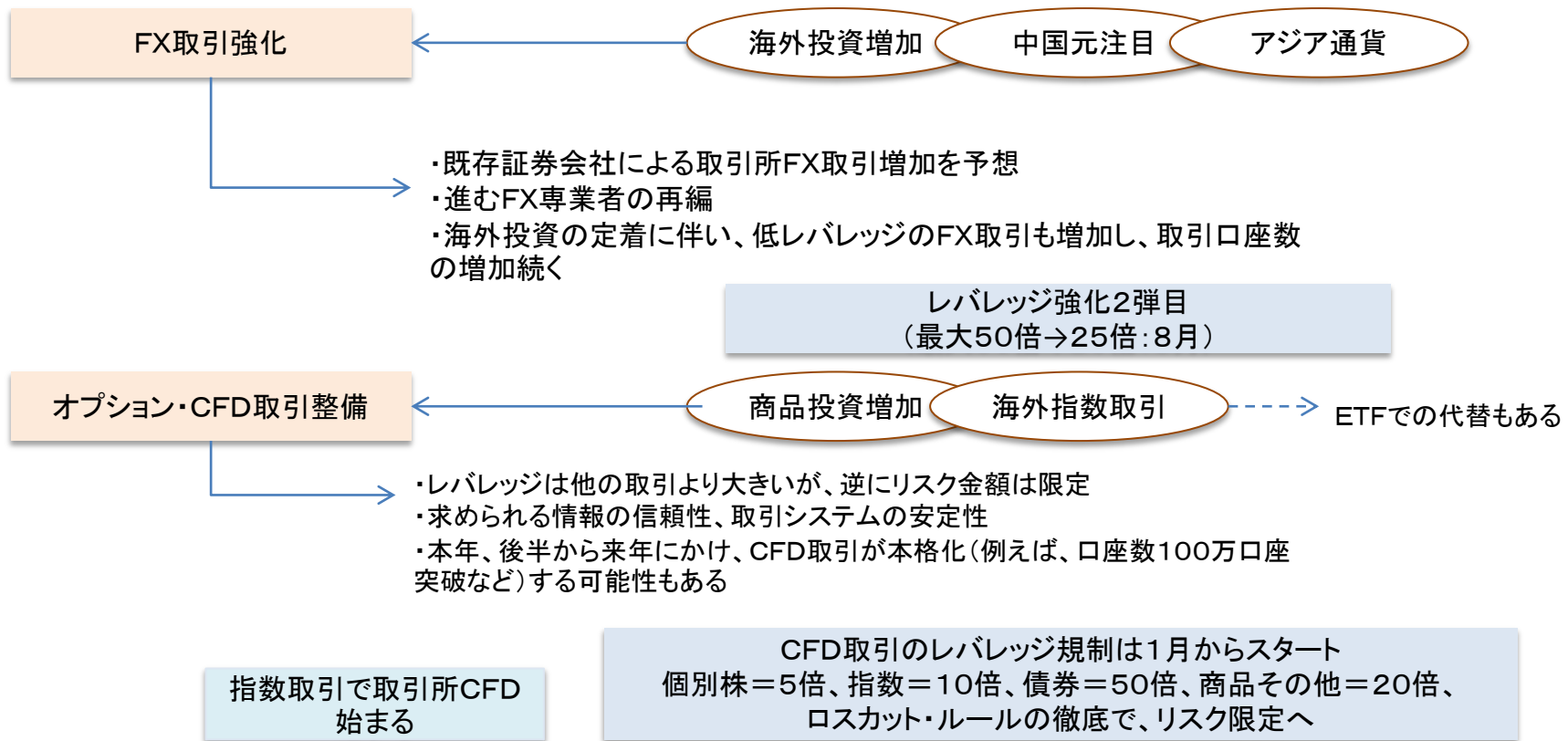
(参考:競争環境)

- ・ネット証券の口座獲得競争は、総数で見ると頂上に近いのではないかと？
- ・大手証券のネット手数料引き下げ攻勢
- ・今年、多分急増する証券CFD取引への対応策は？

新規業者の参入・攻勢強まる
ロスカット・ルールの徹底



今年、リテール証券が注目すること＝デリバティブ



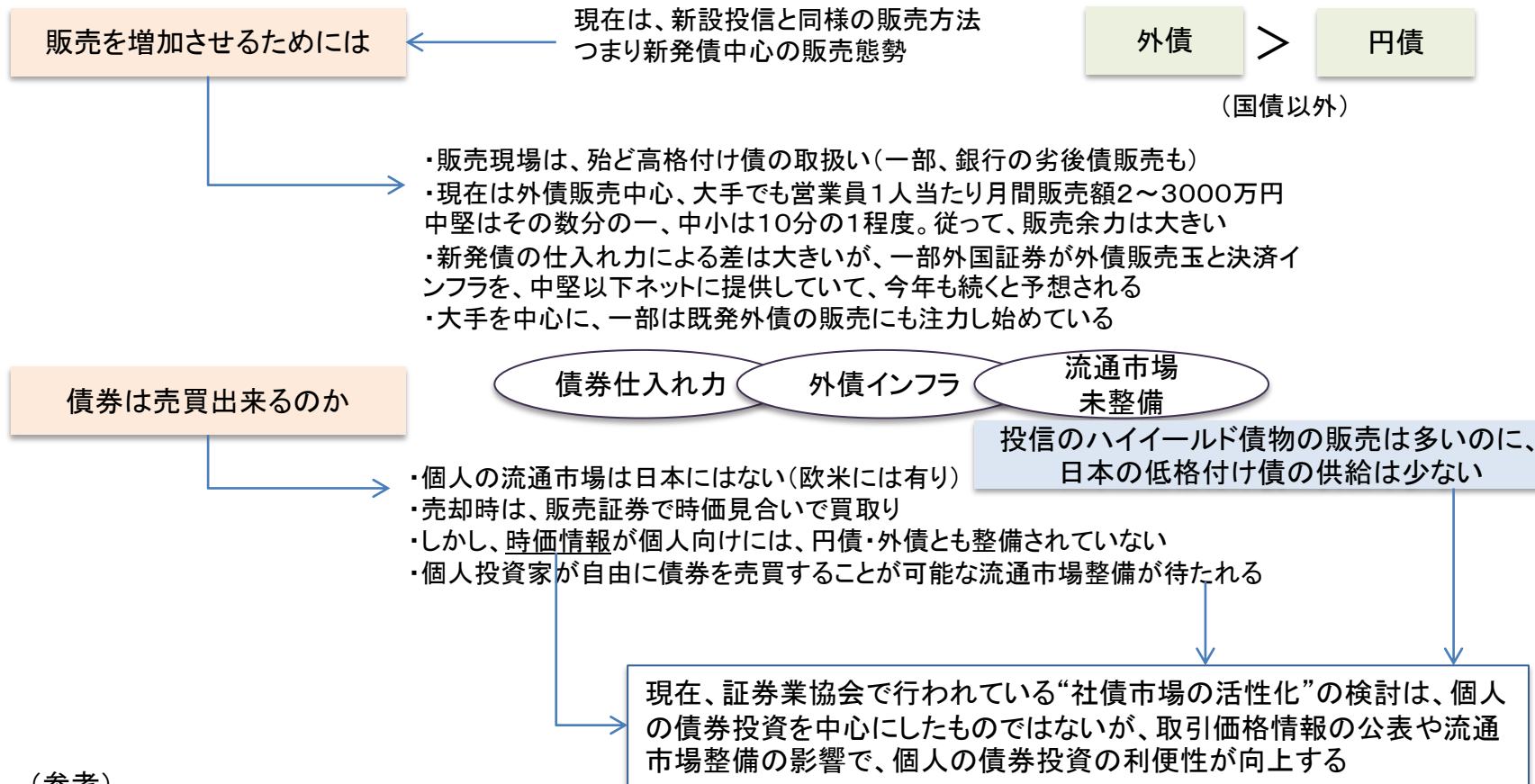
(参考)

オプション、CFD取引は、ほぼリアルタイムで、証拠金・建玉が値洗いされるので、現在の信用取引と異なり、日に何度でも同一の証拠金(清算する取引の損益を差し引いて)を利用することが出来る。



デイトレーダー達のニーズ
の受皿になれるか？

今年、リテール証券が注目すること＝債券



(参考)

個人投資家の日米社債保有(2009年末時点、証券業協会資料より)

・日本
 - 1.36兆円
 (個人金融資産の0.09%)
 (社債発行額の2%)
 - 国債は38.44兆円
 (個人金融資産の2.64%)

・米国
 - 2.24兆円(約186兆円)
 (個人金融資産の5%)
 (社債発行額の19%)

